平成26年度地（知）の拠点整備事業成果報告にあたって

広島大学 生物生産学部長　　植 松　一 眞

広島大学では、「平和共存社会を育むひろしまイニシアティブ拠点」事業が平成 25 年度に文部科学省「地（知）の拠点」事業に採択されました。この事業は、①平和発信、②障がい者支援、③中山間地域・島しょ部対策〈条件不利地域対策〉、の３つの領域が設定されています。本学部は、「中山間地域・島しょ部対策」領域について、その教育・研究プロジェクトの中心を担っております。

広島県の中山間地域や瀬戸内海島しょ部は、過疎化と高齢化が進み、地域社会が条件不利化しています。広島大学では、学びを通して中山間地域・島しょ部が抱える問題への認識を深め、解決に向けて考え、主体的に行動できる学生を養成しています。住民の皆様、自治体や企業・団体等と連携し、地方創生の拠点形成を目指しています。

平成26年度から、地域の皆さまのご支援・ご協力を頂きながら、体験型授業やフィールドワークを取り入れた教育プログラムを開始し、地域に根ざした課題解決が可能な人材の育成をめざした取り組みを行っています。

大学１年生が参加する教養ゼミにおいて、学生のフィールド体験を基にした学生のアイデアや提案など、地域貢献につなげるため地域・市町との意見交換、円卓フォーラムの開催、Ｗｅｂサイト、プレスリリースなどで情報発信を行いました。地域で活躍している人物を招聘して開催される特別講義、地域体験を深めるインターンシップ、地域の声を踏まえた貢献活動、地域課題をテーマにした卒業論文や研究など多様な活動を行っています。

このように、地（知）の拠点の教育・研究活動を通じて、基礎学力から地域への応用展開力を身につけた人材を育てる仕組みづくりが順調に進んでいます。

平成27年度からは、この事業は、地（知）の拠点大学による地方創生推進事業になります。平成 26 年度の活動を基に、「地域連携から地方創生へ」をテーマに掲げて、大学が地域と連携する意義、地域が大学と連携する意義を考えてまいる所存です。

本事業は地域の皆様をはじめ多くの関係各位のご支援・ご協力があればこそ、継続が可能な取り組みです。本事業の成果が、地域の皆様に少しでも役立てればと考えております。

今後とも、皆様方の格別のご指導・ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

地域連携から地域創生の波へ

中山間地域・島しょ部対策領域　教授　山尾政博

活動の成果を踏まえて

文部科学省により 2013 年に採択された広島大学の**「平和共存社会を育むひろしまイニシアティブ拠点」**の課題のひとつ、中山間地域・島しょ部領域では、地方自治体と強く連携し、学生に体験活動やフィールドワークを通して農山漁村の現場で起こる様々な問題を認識・学習してもらう取り組みを行ってきました。本報告書は、2014 年度の活動を振り返り、教養ゼミでの春と秋の体験学習、連携講座、インターンシップ、学生による地域課題研究と貢献活動、円卓フォーラム等について成果と今後の活動をまとめています。

地域志向教育と学生の関心

日本の農水産業と深いかかわりをもって教育研究を行う生物生産学部では、日々の教育活動のなかに地域志向を取り組んでいます。学生の皆さんの間には、地域や田舎の暮らしに関心を寄せ、フィールドワークを通じて自身の研究課題を探ろうという意欲が高まっています。何よりも、中山間地域・島しょ部の住民の皆さんの生活や生産について、もっと知りたいという要求がみられます。

地域連携活動はより具体的に

2014 年度の活動を通じて明らかになったのは、地域は大学と連携する際により具体的なイメージを持って臨むようになったことです。漠然とした地域活性化を望む声も聞こえてきますが、現場が求めるのは日常的な生産・生活・文化に関わった地域連携です。地域を、学生教育の場にすることは快く受け入れていただいていますが、同時に、学生や教員には真摯な態度で地域課題に向き合うことを求めています。

地方創生の流れのなかで

2015 年度より、本事業は「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」と名前が変わり、新しい活動内容が組み込まれます。大学も地方創生との連携を計画し、実行に移す時期がきたようです。中山間地域・島しょ部領域では、2014 年 12 月に開催した**「広島県の地（知）の拠点　円卓フォーラム」**にて、学生を受入れていただいた地域の方々や自治体関係者との間で、地の拠点に基づく教育の進め方、協同で取り組むべき農林水産業の課題、大学を媒介にした地域間連携や交流のシステムづくり、などを話し合いました。

私たちは、地の拠点活動が、地域が抱える問題や課題を、地域の人々と協同で勉強し、地域の“生活”“文化を考える段階に入ったと考えています。